

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育、多角的なアプローチによる「粘り強い」教育を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育み、目的を持って豊かな生活を送ることができる人材を育成する。

2 中期的目標

1 エンパワメントスクールの教育内容の充実

P D C Aサイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和5年度には85%とする。(R2 84.5% R1 72.7% H30 63.4%)、「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見を令和5年度には80%とする。(R2 78.1% R1 64.0% H30 55.7%)

ウ 4つの系列科目の内容の充実

※ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和5年度には80%とする。(R2 71.1% R1 70.1% H30 64.1%)

2 3つの力(新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力)を育む。

(1) 学習活動の充実

ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。

※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和5年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.50以上にする。<R3 3.30、R4 3.40、R5 3.50> (R2 3.33 R1 3.18 H30 3.19) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.1以上を維持する。(R2 3.25 3.25 R1 3.11 3.13 H30 3.08 3.10)

イ 令和2年度入学生より新しくなった系列(マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、ワールドトラベラー)の構築を図るとともに、従来の4つの系列(海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際)の内容も充実させる。

ウ 特色ある学校設定の授業を実施する。

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

※令和3年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。(H31 65%、R2 70%、R3 70%) 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。

(3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

※学校教育自己診断における「高校にはいろいろななまきりがあるけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を70%以上にする。(R2 66.6% R1 59.3% H30 52.8%)

イ 人権教育の推進

※学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を70%にする。(R2 67.4% R1 62.5% H30 52.5%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」の肯定的意見について60%以上を維持し、令和5年度において80%以上にする。(R2 78.1% R1 64.0% H30 55.7%)とする。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を10人以下にする。(R1 8人)

オ 国際感覚の育成

※海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。

(4) インクルーシブ教育に向けた取り組みの充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

※令和3年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.30以上にする。(R1 3.18、R2 3.33、R3 3.30)

ウ LHRや総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を70%にする。(R2 67.4% R1 62.5% H30 52.5%)

エ 支援教育体制の整備

※多様な学び方に対応するための環境整備や集団づくり、体験学習を通して、生徒の自尊感情を高め、中途退学や不登校を防止する。

(5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取り組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育等、教職員からの要望に応じたテーマで講演会や研修を実施する。※ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間10回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。

4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。

ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
○寄り添う生徒支援の更なる充実 今年度は、昨年度に比べると、生徒の肯定的な回答が減少しているが、一昨年度より高い水準を維持している。「自分の周りでいじめやいじめに近いことを見聞きしたことがある」では、年々肯定的な回答の割合が減少しており、生徒の安心安全が確保されつつあると考える。遅刻指導や頭髪指導に対する肯定的な評価とあわせて、学校におけるきまりが自分のためになっていると考えている生徒の割合も、一昨年度よりは増加しているが、昨年度の水準には達していない。より一層学校に対する満	第1回 5月26日(水) 新型コロナ感染のため書面での開催 ・学校経営計画について承認いただいた。 第2回 10月7日(木) 新型コロナ感染のため書面での開催 ・学校存続となってよかったと思う。モデル校のビジョンをできるだけ早く練って、江湖に示してほしい。

<p>足度の向上に向けたきめ細やかな支援を行っていく必要がある。</p> <p>○授業改善の取組みの深化 教室の黒板をホワイトボードに変えたことにより、ICT機器の活用がさらに加速した。「わかる」授業づくりの工夫や、生徒が主体的に参加する取組みの増加により、授業に対する評価は高水準を保っている。</p> <p>○教職員の学校運営の参画 教職員の意見が学校運営に反映されている項目の評価は昨年と比較して、高くなったが依然45.8%と低い状況である。「ともに学びともに育つ」多様な教育実践モデル校として、主体的に学校運営に参画できる教員の育成に努めたい。</p>	<p>第3回 1月27日(木) 新型コロナウイルスのため書面での開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に入っていない率が高いのが気にかかる。部活動の中で組織運営力やコミュニケーション力を身につけるとともに、ルールを守る大切さを学び将来の社会活動に生かしてほしい。 ・OECDの”Student Agency”などを踏まえて、生徒たちにどんな力をつけるために、どんな教育活動を行うか、教員間で論議が活発になることを願います。 ・コロナの為、地域の催し物(つつじ祭、盆踊り)、小学校の車イス指導等の支援が出来なかった事、非常に残念であった。
--	--

府立岬高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 エンパワメントスクールの教育内容の充実	P D C A サイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う ウ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的に開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 教育庁主催の会議等に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ80%、70%以上を維持するとともに、85%、75%に近づける[84.5%・78.1%] イ 授業アンケートの全ての項目において、3.1以上とする ウ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を70%とする[71.1%]	ア 「国数英の授業は毎日30分あるので学力がつくと思う」83.5% (○) 「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」75.3% (○) イ 3.19 から 3.29 の範囲(○) ウ 72.3% (○)
2 (1) 学習活動の充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4つのコースの内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を実施する	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける ④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける ⑤具体的にほめる 以上の5項目を教員が目標とする 放課後等に生徒が自主的に学習できる環境整備や取組みを行う イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な授業を実施する	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.30とする[3.33] また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.1以上を維持する[3.25 3.25] イ 各コースで新しい取組みを1つ以上行う ウ 新たな取組みを1つ以上の実施	ア 「授業展開」の項目において、平均が3.29 (○) 生徒意識1 (○) (①3.10 ②3.19) 生徒意識2 (○) (①3.12、②3.21) イ アクティブIT系列ではフィールドスタディーで収穫した野菜を使った漬物づくりを行い、マリンアドベンチャー系列では海洋スポーツイントラで海洋環境調査のためのビーチクリンを行い、ソーシャルケア系列ではピアメディエーションIで介護食の試食体験を行い、ワールドトラベラー系列では映画を教材として英会話を学んだ。(○) ウ 自己探究で実施 (○)
2 (2) 特別活動の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持する ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りに関する肯定意見を80%以上にする ・広報誌などへの掲載回数1回以上	山海人P 72.4% (○) 体育祭 74.7% (○) 文化祭 79.6% (○) 国際交流 未実施 (ー) 新聞掲載 1回 (○)
2 (3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 オ 国際感覚の育成	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHRや総合的な学習の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHRや総合的な学習の時間で実施する エ 1年次から進路実現を目標としたHRを計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める オ 海外との交流を実施し、交流内容の充実を図る	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を68%以上にする[66.6%] イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている」を70%以上にする[67.4%] エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする オ 年に1回海外との交流を行う	ア 「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」62.5% (△) イ・ウ 「人権を大切にするための学習が行われている」68.6% (△) エ 未定者10名(3月末時点) (○) オ 0回 (ー)

府立岬高等学校

2 (4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実	<p>ア 高校生活支援カードの活用</p> <p>イ 授業のユニバーサルデザイン化</p> <p>ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する</p> <p>エ 支援教育体制の充実</p>	<p>ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有 配慮等が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成</p> <p>イ 支援教育の観点により、2 (1) の授業づくりに取り組む</p> <p>ウ LHRや総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする (再掲)</p> <p>エ 多様な学び方に対応するための環境整備等の取組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する</p>	<p>ア 高校生活支援カードの提出100%を維持 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成</p> <p>イ・ウ 2 (3) イ・ウと同じ</p> <p>エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に5回以上開催する</p>	<p>ア 提出率100% (○) 個別の教育支援計画作成 (○)</p> <p>エ 地域の団体と連携し、運動を通して、コミュニケーションや体幹を鍛える取組みを7回開催した。(○)</p>
2 (5) 通級指導教室の充実	<p>ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る</p>	<p>ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う 通級指導室の環境整備を行う</p>	<p>ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取り組みを行う 特性に応じた環境整備を行う</p>	<p>ア すべての入級生徒に対し自尊感情アンケートを3回実施 (○) 自尊感情を高めることができ、授業への満足度は期待通りであった。 対人関係等に困難さを感じる生徒への支援 (○)</p>
3 人材の育成と管理	<p>ア 教員研修の充実</p> <p>イ 働き方改革の推進</p>	<p>ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う</p> <p>イ 業務の効率化を図る</p>	<p>ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間10回実施する</p> <p>イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る</p>	<p>ア 17回 (○)</p> <p>イ メールでの資料配布、連絡事項の周知により会議のスリム化 (○)</p>
4 地域連携と広報活動	<p>ア 地域の小学校への、点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する</p> <p>イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する</p> <p>ウ 学校の取組みを発信していく</p>	<p>ア 取組みを継続する</p> <p>イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する</p> <p>ウ 特色ある取組みの広報を行う</p>	<p>ア 取組みを継続する</p> <p>イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する</p> <p>ウ 通級指導教室の成果の共有と発信を行う</p>	<p>ア 感染状況により中止 (-)</p> <p>イ 4団体が参加 (○)</p> <p>ウ 随時見学受入れと中学校訪問での説明、泉佐野の人権教育研究協会にて本校の特色ある取組みとして通級の説明を行った (○)</p>